

## 「シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム 参加報告書」

京都大学文学研究科 博士2年 (氏名) 飯塚 一

## ①学習成果

Jay Garfield 先生による講義やセミナー、ゲストスピーカーによるセミナー、学部生向けの哲学入門講義などに参加し、先生や学生たちと意見を交わした。日本とは違い、学生たちは(時には話をさえぎる形で)積極的に質問をしており、強い刺激を受けた。とくに Jay Garfield 先生の授業は、現代哲学の視点から仏教哲学を再構成する内容となっており、本派遣のテーマである「分析アジア哲学」の構想にかんして、新たな知見を得る結果となった。また授業だけではなく、夜にはディナーなどを介して、派遣先大学の教員・学生たちと交流を深め、お互いの研究にかんして意見を交流した。

また自分の英語力にかんしても向上が見られた。漫然と生活していても英会話の機会は少ないため、現地の学生たちと積極的に交流することで、生の英語に増える機会を増やした。

## ②海外での経験

現地の学生たちにバーベキュー大会やピザパーティを催していただいたそのほかにもライブなど多くのイベントが大学構内で行われており、自由な雰囲気を感じた。また(学校の規則もあって)学生たちがお酒をまったく飲まないのが印象的であった。

また様々な点で、日本との文化的差を感じた。とくに宗教的配慮について、シンガポールは生き進んでいる。たとえば学食で、豚などを使った料理の容器は、使っていない料理の容器とは別の返却台におかねばならない、など。こうした点について日本はあまり進んでいない。自分が留学する際には、前もって理解を深めておく必要があると、強く感じる。

また夜中でも女性や子どもが出歩いているなど、治安が非常に良いのが印象的であった。ただ、チャイナタウンなどでは、(身の危険を感じるほどではないが)スリなどに注意が必要だと感じた。

## ③プログラム内容

シンガポール国立大学および Yale NUS カレッジにおいて、「分析アジア哲学」をテーマとして、同大学の教員・院生・学部生との研究交流を行った。とりわけ4日間にわたって、以下の内容のワークショップが催された。

1 日目: 近代インドの哲学者 Bhattacharyya について。

2 日目: 京都学派の哲学者西谷啓治について。

3 日目: Bhattacharyya と西谷啓治の比較。

4 日目: 今回のワークショップを踏まえた上での、今後の相互交流について。

また「応用哲学ワークショップ」も催され、「応用哲学」について、現地の学生たちと意見を交わした。

## ④進路への影響について。

派遣前には、留学すれば英語力が身に付くと漠然と考えていたが、積極的に現地の先生・学生たちと会話することが重要だと認識させられた。また日本人が近くにいると、日本語で会話をしてしまうため、本気で語学を身に着きたいなら、日本人が近くにいない環境に身を置くことが重要だと感じた。その一方で、たんに英語力だけではなく、異文化の理解が、自分には十分ではないと感じた。国際理解を深めるためにも、いまからでも、日本在住の外国人との会話や、Skype などをつうじて、コミュニケーションを日常的なものにしていくことが重要だと考える。

以上を踏まえ、英語力および様々な国の人々とのコミュニケーションの重要性について改めて認識させられ、留学の必要性を感じるとともに、その意欲が非常に高まった。来年度にでも留学をすることで、たんに日本国内だけに留まらない研究をしたい。